

目録 5行レシピ<チラシづくり編>

<文章表現・人権尊重の視点からの配慮>相手に精神的な苦痛や不快感を与えたり、偏見や誤解を生むような表現は慎みましょう。

男性も女性もいることを念頭におきましょう。

- フレッシュマン→新人、新入社員
- 女医→医師
- 女社長→社長

身体的な比喻表現は、障がいのある人に不快感・疎外感を抱かせることがあります。

- 手落ち→おちど、不備
- 手短→簡潔に、短時間で
- 市民の足→市民の乗り物（交通手段）

障がい、病気などを表す言葉は、以前は否定的・差別的なイメージの用語もありました。

- 痴ほう→認知症
- 精神分裂病→統合失調症
- 精神薄弱→知的障がい
- 精未熟児→低出生体重児

(参考：ユニバーサルデザインに配慮した印刷物作成の手引き<福岡市発行>)

目録 5行レシピ<団体運営編>

会費収入は安定的で自由度の高い収入。寄付金収入は、団体自体あるいは事業や活動に対して賛同した金銭や財産のことをいいます。

■会費

多くのボランティア団体やNPOでは、会員制度に会費制を設けています。団体にとっては、会員から毎年（毎月）継続的に払われる会費は、安定した収入源のひとつで、加えて使途の自由度が高い収入であるといえます。

■寄附金

継続性がなく、団体またはその事業に対して賛同したものから、見返りを期待せずに拠出される金銭や財産。その団体の活動の全体に対して、受けた寄附金であれば使途の自由度は高いが、一定の事業や活動などを指定されて受けた寄附金は使途が限られます。

どちらも獲得することに苦勞をしている収入源でもあります。団体側で使い道の使途や活動に対する説明など、寄附者側（ドナー）にしっかりと伝えていくことが重要です。

次回は、助成金・補助金収入について解説していきます。(参考サイト：NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会)

■主な役割と設備

住民活動に関する相談やアドバイスを行なうとともに、NPO・ボランティアのさまざまな情報を発信しています。

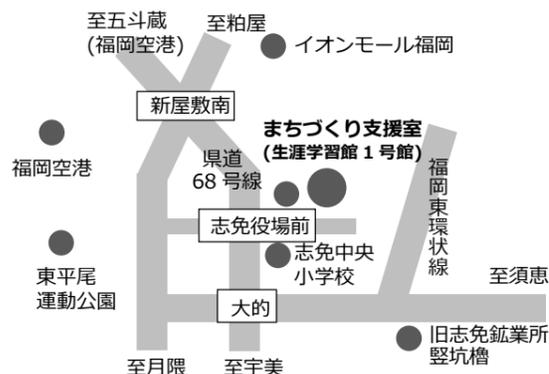
また打合せスペース、チラシ等を作成する印刷機(有料)、団体の活動を紹介する情報コーナーなど、団体の活動で利用できる設備があります。

次号<Vol.08>は2015年12月発行予定です。

まちづくり支援室は、住民活動を支援し、志免町と町民の皆さんとで協働したまちづくりをすすめるために設置された施設です。専門のコーディネーターを配置し、NPO やボランティアに関する情報を発信するとともに住民活動に関する相談やアドバイスを行っています。



- 発行：志免町まちづくり支援室
- 発行日：平成27年(2015年)9月30日
- 編集：NPO法人メディアイド
- 住所：〒811-2244 福岡県糟屋郡志免町志免中央1-3-2 (生涯学習1号館内) TEL：092-936-8626 FAX：092-936-8626 E-mail：collabo@town.shime.lg.jp
- 開館時間：9：00～22：00 (17時以降に利用希望の場合は、必ず事前予約が必要)



The 志免町まちづくり支援室

2015.09.30

Vol.07

<本号の内容>

- ★ 支援室から報告
- ★ 活用しよう!! 志免町の助成制度
- ★ 活動に役立つ5行レシピ

レポート

“みんなでつくる”夏まつり

Team前向き

8/23



8月23日、シーメイトグラウンドにて夏まつりが開催されました。子どもから大人まで350名を超える出演者、そして来場者は約4,000名。町民でにぎわう、楽しい夏の夕暮れとなりました。

主催は、志免町まちづくり支援室の登録団体でもある「Team前向き」のみなさん。今回は、この夏まつりから活動のヒントを探ってみることにします。

●きっかけは「夏まつり」

団体設立のきっかけは、町主体で行われていた夏まつりが廃止になったこと。そこで、「町がやらないなら、自分たちでやろう!」と立ち上がったメンバーが結成。現在14名のメンバーで60代が中心となり、若手メンバー(20代・30代)も活躍しています。

●たくさんの方の協力があったからこそ!

今回の夏祭りは「Team前向き」のスタッフを中心に、社会福祉協議会、シルバー人材センター、地元企業などから約50名の協力を得て、全てボランティアスタッフで運営。駐車場の交通整理や、テントの設置撤去など、「Team前向き」のメンバーだけでは難しい作業も、安全で円滑にできたようです。

【もの・場所】また、ほとんどの設備・機材は、自前ではなく借り物。いろいろな人や組織を巻き込みながら運営しているのが目につきました。

さらに当日会場のシーメイト・グラウンドのほか、駐車場、調理室や控室として複数の施設も借用。テント、机や椅子などの備品も、志免町内にある町内会(自治会)など地元の団体からの協力で賄ったとのこと。

【協賛】協賛金や物品、サービス券などのほか、広報でも地元企業や商店・個人の協力が大きな力になっていました。集まった物品やサービス券は、福引の景品として活用し、当日は多くの方々の喜んでる姿が印象的でした。

●周りの人をまきこむポイントは「段取り!」

多くの方がさまざまな役割で関わっていた今回の夏まつり。人を巻き込むには、早い段階で計画を立てて、早くから取り組むことがポイント。「ボランティアで関わる人はみんな対等。みんなで話し合いながら、みんなで汗をかくところに楽しみがありますね」と語る実行委員の川崎さんの顔は晴れ晴れとしていました。夏祭りの翌週にはふり返りを終え、来年(第8回)へ向けての活動がスタートしたとのこと。(報告・牛嶋)